

■ 研究内容と結果

1. 実施方法

本研究は、3.5年間(42ヶ月間)のランダム化二重盲検プラセボ対照比較試験(*6)として実施されました。MCIと判定された方を含む認知機能低下リスクが高い63~90歳の男女26名が、a) SGSを含むサプリメントを摂取する「SGS群」と、b) SGSが全く入っていないプラセボサプリメントを摂取する「プラセボ群」に分かれて、それぞれのサプリメントを毎日、3.5年間摂取させた期間の前後で、認知機能テストを行いました。なお、試験期間中、両方の群の参加者に対して任意で参加できる運動プログラムが提供されました。

2. 評価方法

認知機能テスト「あたまの健康チェック®(英語名:The MCI Screen)*」を用い、認知機能(MPIスコア)の変化を評価しました。

※「あたまの健康チェック®」は株式会社ミレニアの登録商標です。

3. 主な結果

認知機能テストの変化量(介入後の得点から介入前の得点を引いて算出)を用いて、SGSを含むサプリメントの効果を調べました(*7)。

研究参加者全体(認知機能低下リスクがある高齢者)において、SGS群はプラセボ群に比べ、3.5年間の全期間を通じた認知機能(MPIスコア、即時再生スコア、遅延再生スコア)の変化量が統計学的有意に高く維持されました(図1、2)。試験開始時にMCIと判定された方々においても、SGS群のMPIスコアはプラセボ群と比べて統計的に有意に維持されることが確認されました(図1)。

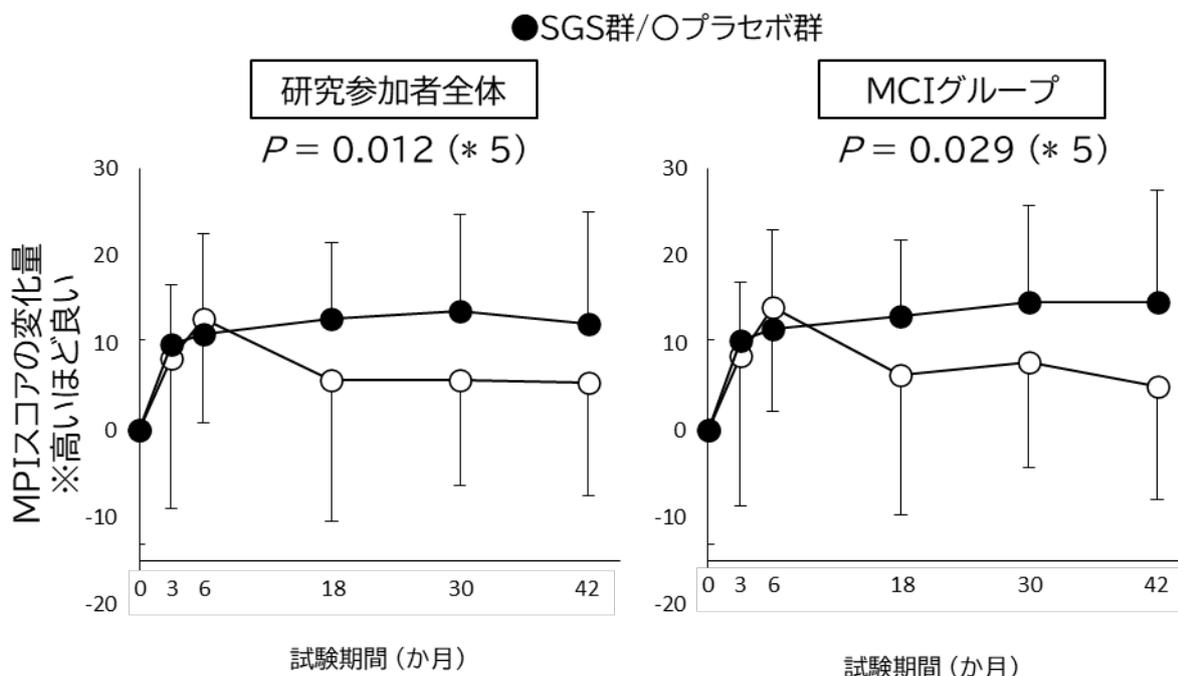


図1. 研究参加者全体およびMCIグループの認知機能指標(MPIスコア)の変化量
(●SGS群/○プラセボ群, 左:試験対象者全体/右:試験開始時にMCIと判定された対象者)